

ラジオカセットコーダー

取扱説明書・保証書/Operating Instructions/사용설명서

お買い上げいただきありがとうございます

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



WALKMANはソニー株式会社の登録商標です。

WM-GX200

Sony Corporation ©2000 Printed in Malaysia

ラジオカセットコーダー
WM-GX200
T11-1001A-1

ご注意

- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前のために録りをしてください。
- ラジオカセットコーダーの不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

主な特長

- ソニーアルカリ乾電池(別売り)の使用で24時間連続再生が可能(ヘッドホン使用時)
- 耳にやさしい音量にする、AVLS(快適音量)スイッチ。
- 低音を強調する、MEGA BASSスイッチ。
- ヘッドホンなしでも聞ける、ツイーター&フルレンジの2WAYスピーカー。
- テレビ(1~3ch)の音も聞ける、FMチューナー。
- 外部マイクでステレオ録音ができる、ステレオ録音機能。

付属品を確かめる

ソニーマンガン乾電池 R6P(SR)(2本) (お試し用*)



ステレオマイク

ヘッドホン



ヘルトクリップ

取扱説明書・保証書
ソニーご相談窓口のご案内

安全のために

警告

- 乾電池を持ち運ぶときは、コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しないでください。乾電池の+と-が金属でつながるとショートし、発熱することがあります。

保証書とアフターサービス

保証書

- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はご購入日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスデスクテクニカルインフォメーションセンターまたはお買い上げ店、添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

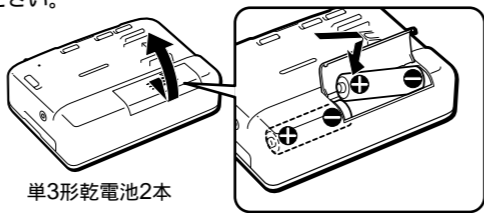
部品の保有期間について
当社ではラジオカセットコーダーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターまたはお買い上げ店、サービス窓口にご相談ください。

準備する

ここでは乾電池での使いかたを説明します。コンセントでの使いかたは、裏面の「電源」をご覧ください。

1 乾電池を入れる

単3形乾電池(2本)を、図のように①と②の向きを正しく入れてください。



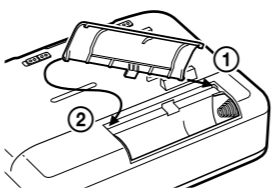
単3形乾電池2本

ご注意

乾電池は別売りのソニーアルカリ乾電池のご使用をおすすめします。

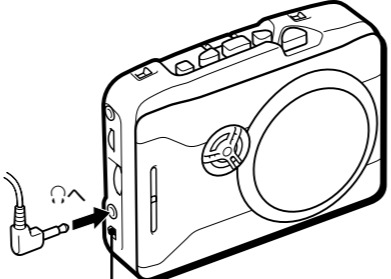
電池ふたがはずれたときは

図のように取り付けます。



2 ヘッドホンをつなぐ

SPEAKER ON/OFFスイッチを「OFF」に合わせます。

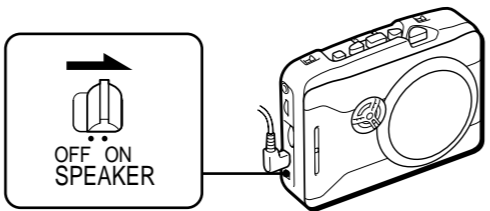


SPEAKER ON/OFFスイッチ

スピ・カ・で使うには

SPEAKER ON/OFFスイッチを「ON」に合わせます。

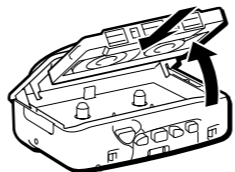
スピーカーから音が聞こえ、ヘッドホンからは音が聞こえなくなります。また、AVLSスイッチ、MEGA BASSスイッチは働きます。



- FM、テレビ放送を聞くときは、ヘッドホンのコードがアンテナとして働くので、スピーカーで聞く場合もヘッドホンはつないだままにします。

テープを聞く

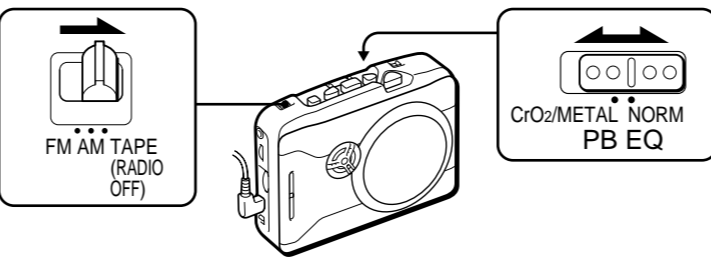
1 カセットを入れる



- 手でふたを開ける
- テープのたるみを取ってから奥まで確実に入れる
- ふたを閉める

2 「テープ」にする

- FM/AM/TAPE (RADIO OFF)スイッチを「TAPE (RADIO OFF)」に合わせる
- 再生するテープに合わせて、PB EQスイッチをNORM(ノーマル)またはCrO₂/METAL(ハイポジション/メタル)に合わせる



3 再生する

① ◀PLAY・再生を押す

② VOLUMEつまみで音量を調節する



その他のテープ操作

操作	操作するボタンまたはスイッチ
停止*	■STOP・停止
早送り/巻き戻し**	停止中に◀◀または▶▶
一時停止	PAUSE・一時停止スイッチを矢印の方向へずらす。解除するには、スイッチを元に戻す。

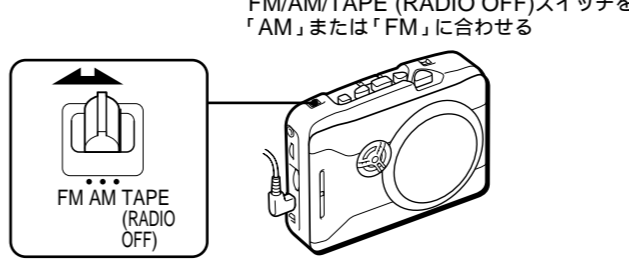
* 再生時は、テープが終わりまできると自動的に止まり、電源が切れます(オートシャットオフ機能)

** 早送り/巻き戻しをしてテープが巻き取られたあとそのままにしておくと、電池が急激に消耗するので、必ず■STOP・停止ボタンを押してください。

! テープ走行中はカセットふたを開けないでください。

ラジオを聞く

1 「AM」または「FM」を選ぶ



- FM、テレビ放送を聞くときは、ヘッドホンのコードがアンテナとして働くので、スピーカーで聞く場合もヘッドホンはつないだままにします。
- テレビ(1chから3ch)の音を聞くときは、「FM」にします。

2 放送局を選ぶ

- TUNINGつまみを回して選局する
- VOLUMEつまみで音量を調節する

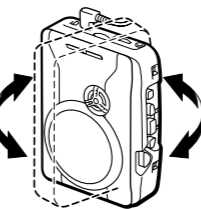


ラジオを消すには

FM/AM/TAPE (RADIO OFF)スイッチを「TAPE (RADIO OFF)」に合わせます。

受信状態をよくするには AM放送

アンテナを内蔵しているので、本体の向きや位置を変えて、最もよく受信できる向きにしてお聞きください。図のように本体を立てた方が受信状態が良くなります。



FM、テレビ放送

ヘッドホンのコードがアンテナになっているので、できるだけのばして使います。

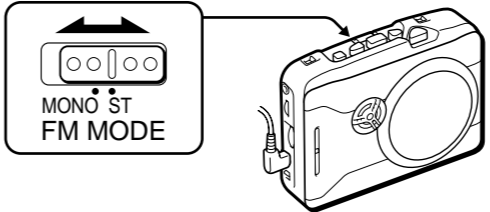
ラジオを聞くときのご注意

受信するとき

- このラジオのテレビ音声回路は、FM放送の受信回路と兼用になっています。このため、一部の地域ではテレビ2、または3チャンネルの音声を受信中、FM放送が混じって聞こえることがあります。その場合はお近くのサービス窓口にご相談ください。
- 本体を他のラジオやテレビ、コンピューターなどに近づけると、ラジオに雑音が入ることがありますので、離してお使いください。
- 一部の金属製のテープをお使いのとき、受信状態が悪くなる場合があります。その場合はテープを抜いてラジオをお聞きください。

ステレオ放送を聞くとき

ステレオ放送を聞くときはFM MODEスイッチを「ST」に合わせます。雑音が多いときは「MONO」にすると聞きやすくなりますが、ステレオではなくなります。また、AM、テレビはステレオにはなりません。

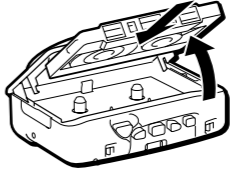


録音する

片面録音ができます。録音には、TYPE I(ノーマル)テープをお使いください。ツメが折れている面には録音できません(「大切な録音を守るには」参照)。

! 録音するときは、2本ともなるべく新しい乾電池をお使いください。

1 カセットを入れる

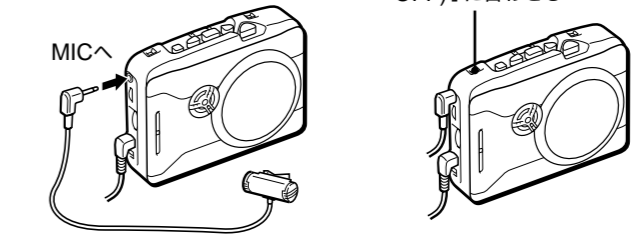


- 手でふたを開ける
- 録音したい面をふた側にし、テープのたるみを取ってから奥まで確実に入れる
- ふたを閉める

2 音源を選ぶ

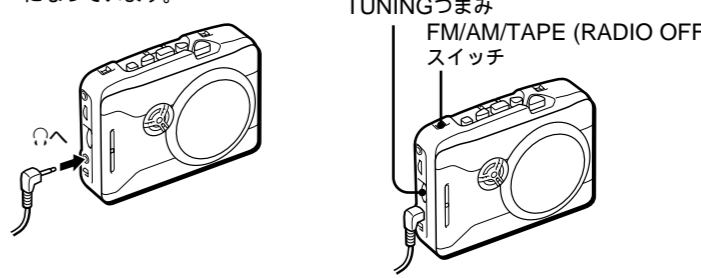
マイク録音の場合

- マイクをつなぐ
- FM/AM/TAPE (RADIO OFF)スイッチを「TAPE (RADIO OFF)」に合わせる



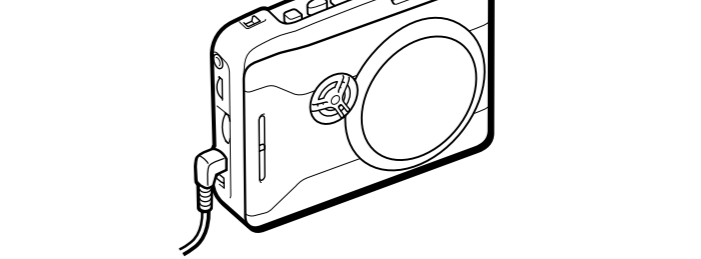
ラジオ録音の場合

- ヘッドホンをつなぐコードがFM、TVのアンテナになっています。
- FMがAMを受信する(「ラジオを聞く」参照)



3 録音を始める

- 録音中にPAUSE・一時停止スイッチを矢印の方向にすると、録音は一時停止します。録音を再開するときは、PAUSE・一時停止スイッチを矢印と反対の方向にします。



PAUSE・一時停止スイッチ

●(録音)ボタンを押す
▶PLAY・再生ボタンが同時に押され、録音が始まります。

ISSスイッチ

テープが終わりまできると録音を始めた面の終わりで自動的に録音が止まります。録音を続けるときはテープ面を入れ替えて録音操作をしてください。

録音を一時停止するには

録音中にPAUSE・一時停止スイッチを矢印の方向にすると、録音は一時停止します。録音を再開するときは、PAUSE・一時停止スイッチを矢印と反対の方向にします。

録音を止めるには

■STOP・停止ボタンを押します。

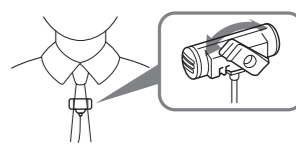
AMを録音中にビーという雑音が聞こえたら

本体裏面のISSスイッチを雑音が消える位置(1、2または3)に切り換えます。

録音レベルについて

録音レベルは一定です。録音される音はVOLUMEつまみ、AVLSスイッチ、MEGA BASSスイッチの設定に影響されません。

付属のマイクの使いかた



クリップはマイクを付ける場所に合わせて方向が変えられます。

録音についてのご注意

- (録音)ボタンは録音開始の2秒くらい前に押してください。直前に押すと最初の部分が録音されません。
- 録音するテープにはTYPE I(ノーマル)テープをお使いください。ハイポジション(CrO₂)テープやメタルテープを使うと、再生する音がひずんだり、前の録音が消えずに残ったりすることがあります。
- 電池が消耗してBATTランプが消えると、録音に雑音が入ったり、性能に充分に発揮できないことがあります。このような場合、なるべく早めに乾電池を新しいものと交換してください。
- 録音中に音を聞きたいときは、MEGA BASSスイッチを「OFF」の位置にしてください。「ON」にすると雑音が聞こえることがあります。

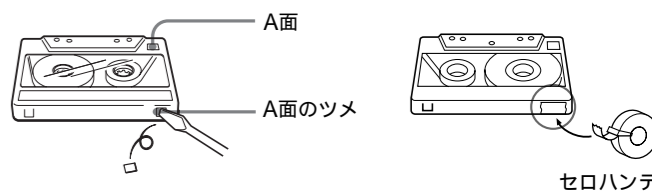
マイク録音について

- 録音中、マイクを電灯線や蛍光灯に近づけると、雑音が録音されることがあります。
- ヘッドホンで録音モニター中に音量を上げると、その音をマイクが拾い、ピーツという音(ハウリング)が生じることがあります。この場合には、音量を下げてください。
- 付属のマイクは、本機につなぐと電源が本機から供給されるプラグインパワー方式です。
- マイク録音中はスピーカーから音は聞こえません。

大切な録音を守るには

ツメを折って取り除きます。

再び録音するには、穴をふさぎます。



セロハンテープ

ツメを折った面には、録音することができません。

